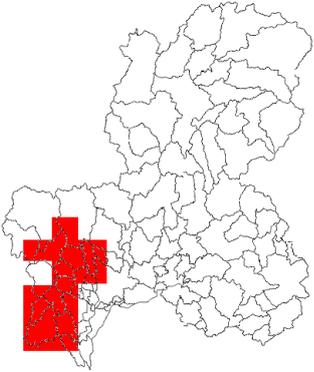


コミヤマミズ	<i>Pilea notata</i> C.H.Wright	準絶滅危惧
		イラクサ科
選定理由	岐阜県では生育地が少なく一部の場所を除き個体数も少ない。	<p>写真(荻山恒弘)</p> 
形態の特徴	夏緑性の多年草。根茎は這い送枝を出して群落を作る。葉は茶を帯びた緑色でやや尾状に伸びる。葉腋から集散花序を出し多数の花を着ける。花期は8-10月。瘦果は長さ0.6mm位。	
生態的特徴	山地の湿った林下に生育している。	
分布状況	県南西部の限られた場所に見られる。分布の東限になると思われる。	
減少要因	生育地の林下の光条件の悪化や林道等の整備が主な要因と思われる。	
保全対策	生育地の森林の適度な管理が必要である。また林道等の整備の際にも配慮が必要である。	
特記事項	ミヤマミズによく似るが、やや小型で葉先は少し伸びる。瘦果も小さい。	
参考文献	佐竹義輔他. 1982. 日本の野生植物. II. P. 6. 平凡社. 東京.	

文責: 荻山恒弘